

研究課題名	消化器癌患者における体組成と Quality of Life(QOL)に関する研究
研究の意義・目的	<p>近年、消化器癌において、サルコペニア（筋肉量が減少し筋力低下や身体機能の低下をきたす状態）が予後不良因子となることが報告されています。また、消化器癌では、経口摂取量の減少により低栄養状態になりやすく、免疫能の低下や創傷治癒遅延、代謝障害などをきたすことが知られています。現在、消化器癌の標準治療として、手術、化学療法、放射線療法などがありますが、これらの治療において、サルコペニアがどのような影響を及ぼしているかはあまり明らかになっていません。</p> <p>この研究では、消化器癌患者さまの体組成を測定し、治療に及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。また、生活の質（QOL）について質問票で回答していただくことにより、治療によるQOLの変化を評価します。これらを解析することによって、治療効果や予後との関連性を検討し、将来的により効果的な治療法を選択することが可能になると考えています。</p>
研究を行う期間	承認後～ 令和 10（2028）年 3 月 31 日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	過去の研究（「体組成分析装置 InBody [®] を用いた上部消化器癌患者の体組成変化についての研究」承認番号 2912）にご協力いただいた患者さまの既存情報を、本研究における研究対象とさせていただきます。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体組成分析結果 ・質問票の回答結果 ・診療情報：病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、検査データ、CT 画像等
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器外科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器外科学 病院講師 吉井真美
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。本研究は、教室研究費を使用して実施しています。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	電話（消化器外科医局：06-6645-3838） 担当者：吉井真美 までご連絡ください。